

地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト

佐賀県立白石高等学校

「 $T \infty T$ プロジェクト」

別添資料 ①

地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト
「夢T∞Tプロジェクト」商業科キャンパス 活動内容(2学期分)

【3町へのプレゼンテーション】

高校生の視点から見た「町の課題」や、地域活性化に向けた「提案」を行いました。

《大町町役場》副町長様をはじめ、企画政策課職員の皆様に対応していただきました。



《白石町役場》総合戦略課職員の皆様に対応していただきました。



《江北町役場》延期 令和3年1月14日実施予定

地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト
「夢T∞Tプロジェクト」商業科キャンパス 活動内容(2学期分)

【中学生対象 プログラミング教室】

地元の中学生6名を対象としたプログラミング教室を本校で行いました。

レゴロボットを利用して、制御系のプログラミングを本校生徒が説明しました。



地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト
「夢T∞Tプロジェクト」商業科キャンパス 活動内容(2学期分)

【小学生対象 プログラミング教室】

地元の小学生16名を対象としたプログラミング教室を本校で行いました。
スクラッチを利用したプログラミングを本校生徒が説明しました。

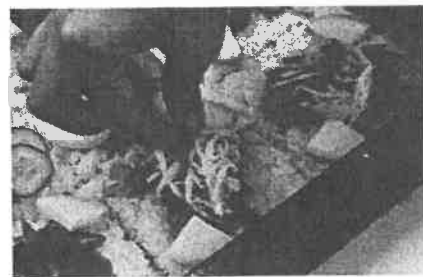
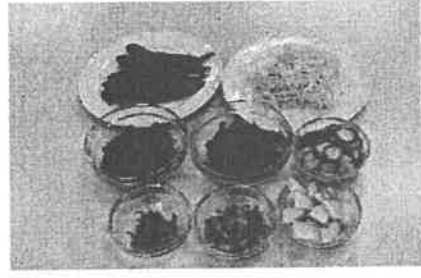
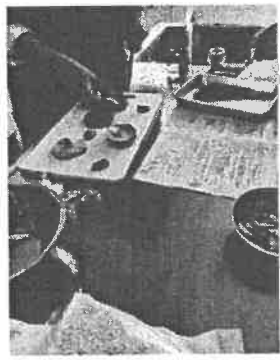


地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト
「夢T∞Tプロジェクト」商業科キャンパス 活動内容(2学期分)

【白石町 レシピイベント】

町へ提言したもののうち、「須古寿司を題材としたレシピ・イベント」に取り組むことにしました。その事前学習として伝統的な須古寿司のことを学び、調理法についても説明を受けました。また後日、本校調理室にて実際に須古寿司を作りました。

《事前学習・調理実習》



『地域連携講座』について

【概要】

1 目的	総合的な探究の時間を利用し、実際の行政課題とその解決策を学ぶことで、『夢を形に』プロジェクトでの課題解決学習の参考とする。	
2 日時	令和2年6月22日(月)	
3 場所	白石高等学校普通科各教室	使用教室詳細は下に記載
4 対象	1年生(普通科)	
5 内容	(1) 打ち合せ(小会議室) (2) 各分野ごとに講話 (3) 意見交換(小会議室)	14:30~14:40(10) ①14:45~15:20(35) ②15:30~16:05(35) 16:10~16:30(20)

【使用教室詳細】

分野	福祉	防災	農業	教育
テーマ	認知症について	白石町の防災について	白石町農業の概要	白石町学校統合再編について
使用教室	1年1組	1年2組	1年3組	学習室4
講師	長寿社会課 高齢者係主事 けんびし すなお 氏 剣菱 純氏 長寿社会課 高齢者係主事 きしかわ ちはる 氏 岸川 知巴瑠氏	総務課危機管理 ・防災係主事 とくひろ さゆり 氏 徳廣 紗百合氏	農業振興課 農政係係長 いしくま ひろふみ 氏 石隈 宏文氏 農業振興課 振興課係係長 もり あやこ 氏 森 綾子氏	学校教育課 学校統合再編係主任 いしくま あつみ 氏 石隈 あつみ氏
電子黒板	使用する	使用する	無	無
1コマ目 14:45~ 15:20	担当教員: 真崎 直美 生徒数: 40名	担当教員: 光田 新吾 生徒数: 11名	担当教員: 橋本 和征 生徒数: 30名	担当教員: 中林 卓也 生徒数: 38名
2コマ目 15:30 ~16:05	担当教員: 山岸 幸司 生徒数: 40名	担当教員: 檜崎 寛之 生徒数: 39名	-	担当教員: 三原 敬子 生徒数: 40名

※1 生徒は4分野のうち希望する2講座を受講

※2 当日は、①~⑥限は45分授業、⑦限目は80分授業

佐賀県立白石高等学校
令和2年度進路講演会と講演に関わるフィールドワーク

1. 令和2年度進路講演会

- ① 講師：佐賀大学工学部流域水工学研究室 大串浩一郎先生＋同行学生1名

所属：理工学部 理工学科 都市工学部門

職名：教授 学位：博士（工学）（1992年04月）、工学修士（1986年03月）

専門分野：水工学、自然災害科学・防災学、科学社会学・科学技術史

所属学会：土木学会、日本リモートセンシング学会、国際低平地研究協会、国際水理学協会、在来知歴史学会

受賞歴：Best Paper Award, 9th Int. Symposium on Lowland Technology (ISLT2014)（2015年01月）

著作活動：著書6編（共著）、審査付き論文124編、総説・解説・学術資料・技術報告等34編国内・国際講演等173編

審議会委員・学会委員等：抜粋

佐賀市排水対策基本計画策定委員会委員長、佐賀県川づくり委員会委員長、佐賀県水道ビジョン策定委員会委員長、杵東地区衛生処理場組合汚泥再生処理センター建設委員会委員長、佐賀県災害による製造業者の油等流出防止対策研究会座長、土木学会水工学委員会令和元年8月佐賀豪雨災害調査団団長、在来知歴史学会会長

* 学生様情報

溝上哲平（ミゾカミ テツペイ）

佐賀大学理工学部都市工学科4年生

- ② 日時：令和2年6月10日(水)15:15～16:05
- ③ 場所：白石高校普通科キャンパス体育館及び1.2年生教室
- ④ 目的：未曾有の災害である令和元年佐賀豪雨に関わる最新の知見に触れ、今後の流域における防災のあり方を考えることを通じて、持続可能な地域社会の創造や生徒自身の生き方・あり方について考える機会を持つこと。
- ⑤ 演題：「令和元年8月佐賀豪雨災害と今後の水災害への備え」
- ⑥ 内容：佐賀豪雨分析、防災、今後の地域の課題
- ⑦ 形態：多目的教室での講演は三密を避けるために3年生のみが対策を講じたうえで視聴した。1.2年生は各教室の電子黒板にteamsによる配信を使って視聴した。商業科キャンパス希望生徒は、ケーブルワンで収録されたデータで視聴した。
- ⑧ その他：実施にあたっては、「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」と連携して行った。
- ⑨ 担当：普通科キャンパス 鶴田順一郎 0952-84-2131

2. 講演に関わるフィールドワーク

①スケジュール

実施日：8月18日（火）（予備日8月20日（木））

15:00 白石高校商業科キャンパスより商業科キャンパス生徒、普通科キャンパスへ移動

*14:50 駐車場でヘルスチェックアンケート回収
マイクロバス（鶴田運転）でお迎えにあがります。

15:30 普通科キャンパスにて、ヘルスチェック、事前レクチャー実施@普通科キャンパス会議室

- ① 目的説明
- ② 大串先生よりフィールドワークの事前説明
- ③ 荒木先生より（佐賀大学ダイバーシティ推進室）プレゼンテーション
- ④ 佐賀大学理工学部学生3名（佐賀大学理工学部都市工学科4年生 溝上哲平・野瀬光希・福山真優奈）より自己紹介

16:00 白石高校普通科キャンパス発

16:40 下西山下車

武雄川付近の車による2度の被災箇所視察

*献花、代表生徒 3315 田中響、3422 中島優衣

17:00 下西山発 *トイレ休憩@武雄市役所 *飲み物配布（SEAP 予算より）

17:20 高橋排水機場下車

武雄河川事務所の担当者から説明

（当排水機場の役割、昨年8月豪雨災害時の当地区の状況など）

17:40 高橋排水機場発

18:00 下瀉下車

鉄工所油流出現場視察

18:20 下瀉発

大町駅途中下車

2号車商業科キャンパス経由

18:45 白石高校着（予定）

② 参加の際の注意事項

- ・熱中症対策（帽子、タオル、飲み物など準備）
- ・感染症対策（マスク準備）
- ・参加者リストによる点呼
- ・当日は検温を行い、ヘルスチェックシートを提出

③ 参加者 *生徒は希望者

商業科キャンパス生徒12名、普通科生徒20名、普通科職員4名
佐賀大学職員2名、佐賀大学学生3名 計41名

④ その他

(1) この企画はSEAPの活動の一環として行った。

(2) SEAPは弘済会より支援を受けている

SEAPは…

地域と連携することを通じてESDに力を入れています。ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。SEAP（Shiroishi ESD Action Plan）は今年度途中で発足しました。白石高校オリジナルの課外活動支援プログラムです。生徒の主体的選択による課外活動、校外活動等を通して自らの生き方・在り方について考える機会を持ち、社会貢献できる人材育成の一端を担うことを目指しています。

⑤ 写真

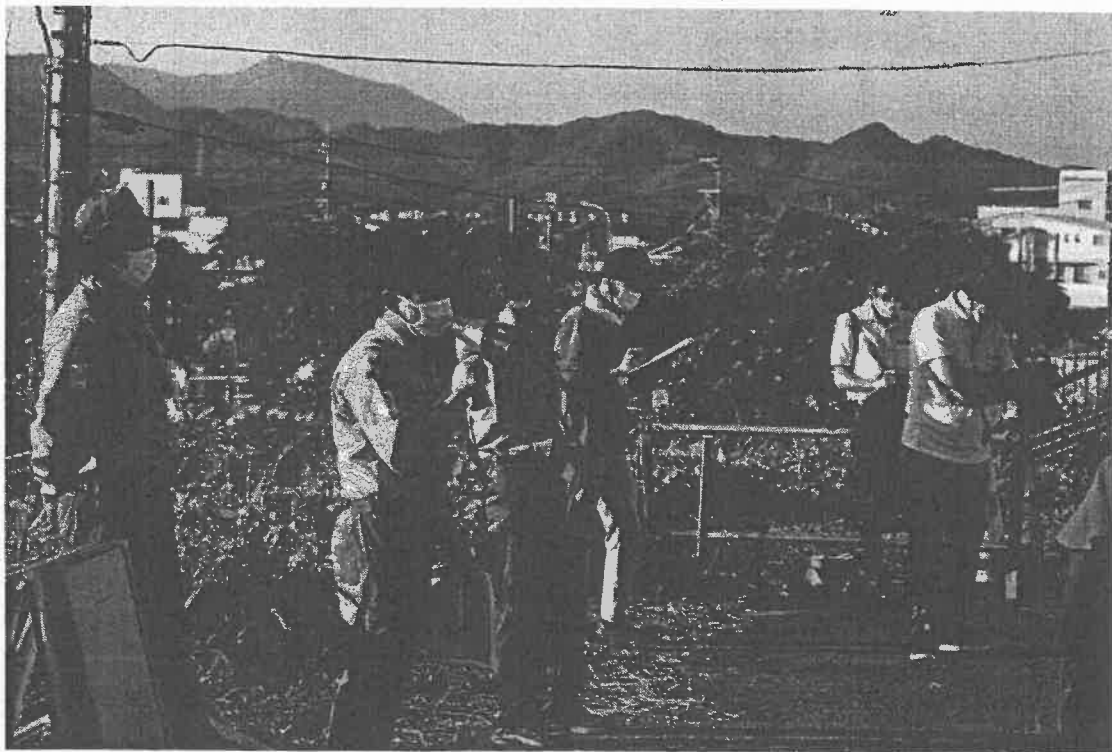
事前レクチャー（左から大串教授、荒木先生、溝上さん）



上西山の鉄砲水による死亡現場にて献花



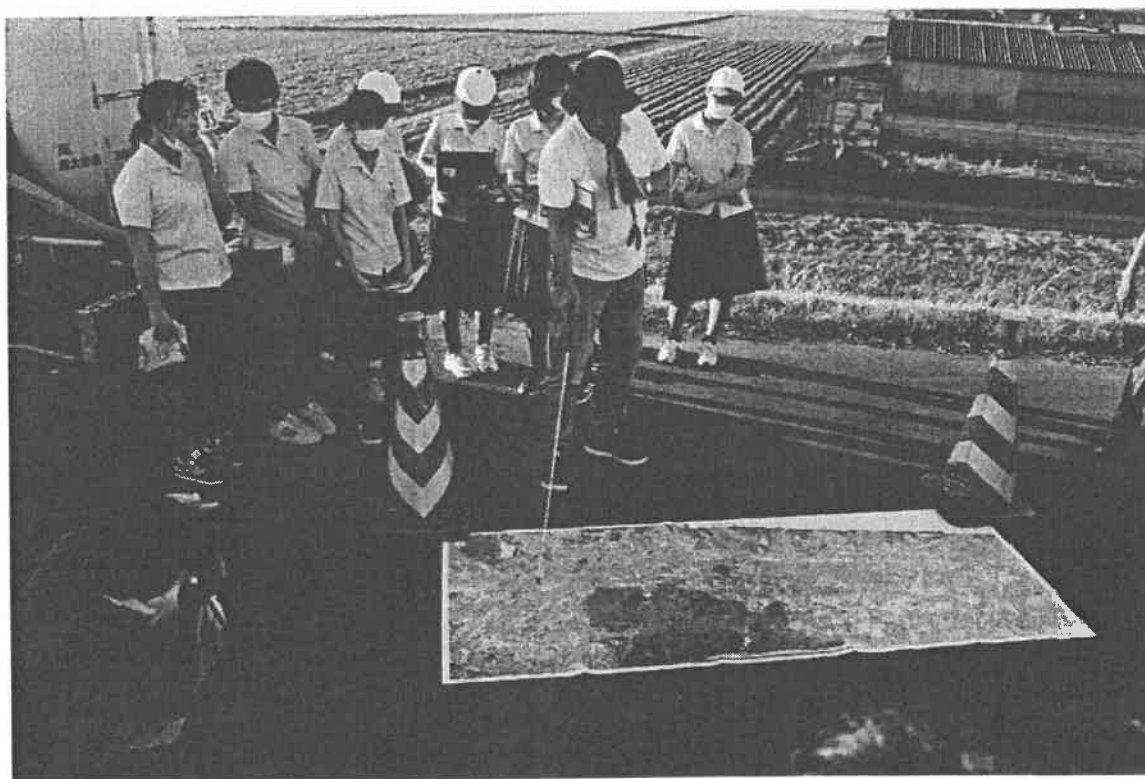
高橋排水機場にて国土交通省の職員から説明を受ける様子



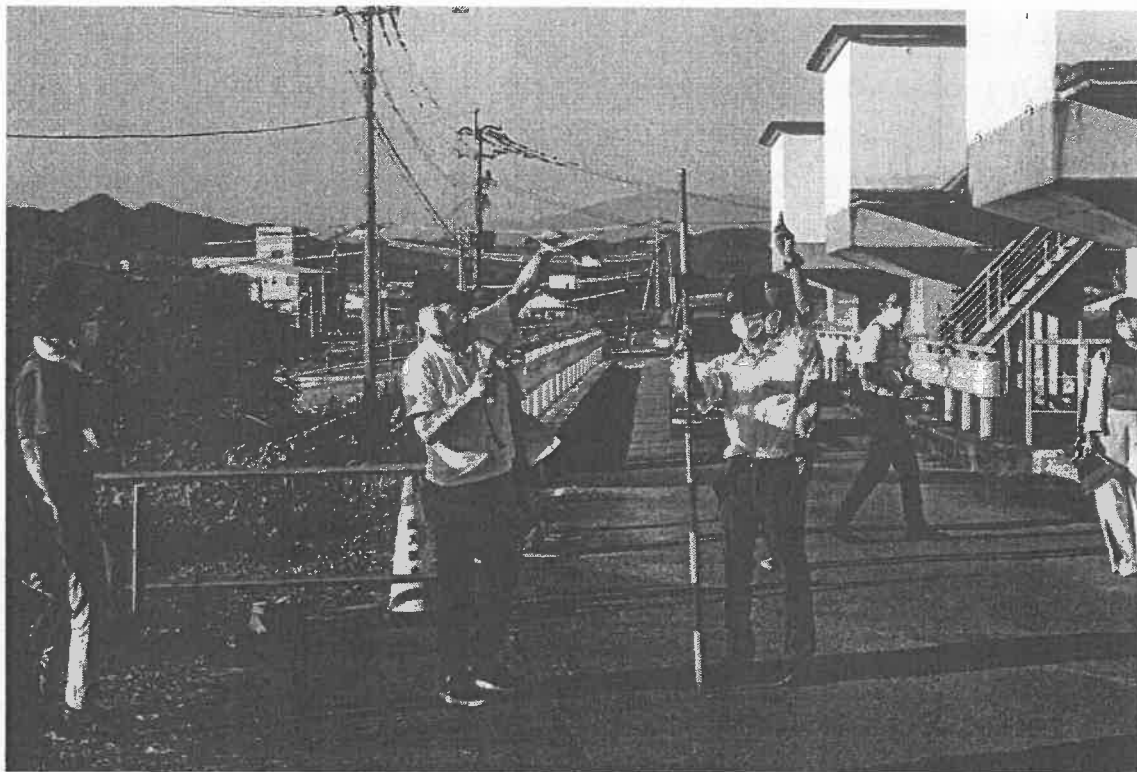
インタビューを受ける生徒



下瀉で航空写真を用いて説明をする大串教授



浸水の深さを説明する大串教授

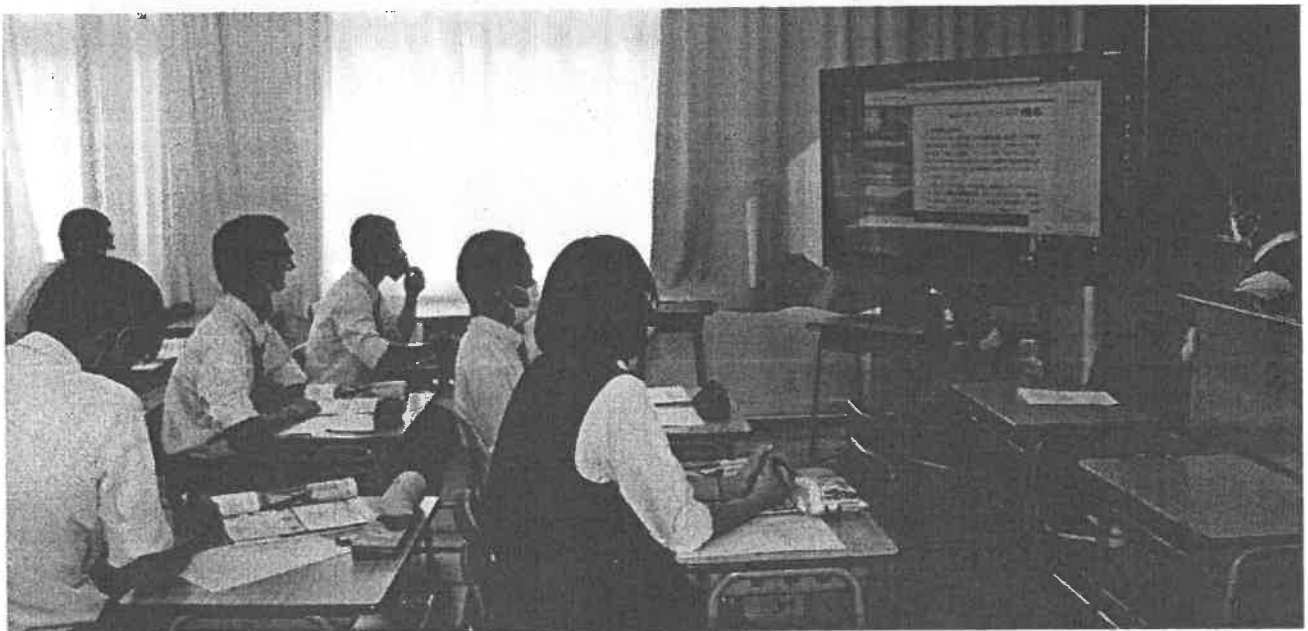


地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト(地域連携、大学連携)

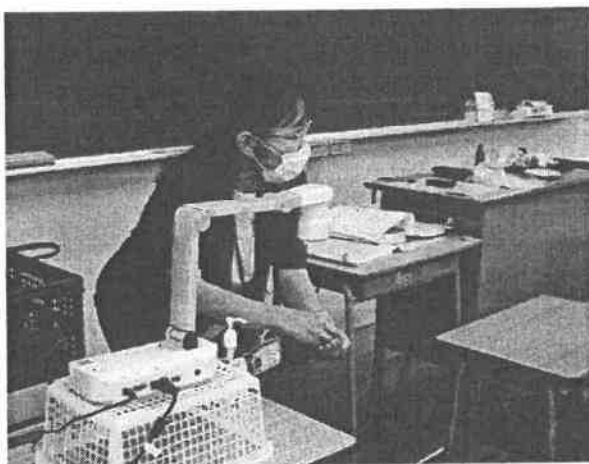
高大ジョイントセミナー 10月5日(月)

普通科2年生は佐賀大学6講座、西九州大学2講座、合計8講座の中から、それぞれの興味・関心のある講座を一つ選び、受講しました。佐賀大学の講座はマイクロソフトのteamsを利用してリアルタイムのオンラインで行いました。タブレットのカメラ、マイクを通して、質問、謝辞なども行いました。インターネットのポテンシャルを体感することができました。白石高校ではいつでも気軽にオンラインで活動ができることもわかりました。佐賀県がいち早く環境を整備してくれたことは嬉しく思います。

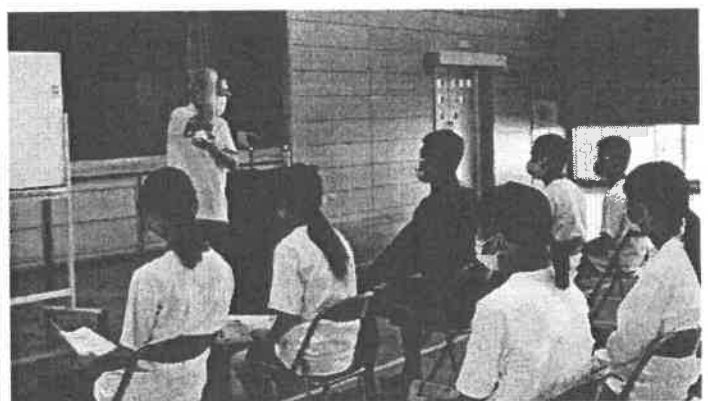
体育館では、椅子やマットを使い、日常的な体の動きのメカニズムについて実習形式の研修を行いました。同時に人と人が差し向かいでコミュニケーションをとることの尊さも体感することができました。地域の大学と連携し、それぞれの学びを主体的に深めることができた1時間でした。



佐賀大学芸術地域デザイン学部 山崎功先生のオンライン講座



西九州大学看護学部 古川久美子先生の対面講座



西九州大学 溝田勝彦先生対面講座

キャリア教育講演会

普通科の講演会は普通科全生徒、商業科キャンパス希望生徒が参加しました。テーマを設定し、6人の講師の先生方に來校いただき、同時に6つの講演会を行いました。講師の先生方、お一人お一人の個性と取り組みに触れることができ、深い学びと勇気をいただいた講演会でした。次回はぜひ、保護者の皆様もご参加ください。今回の講演会にご興味をお持ちの場合は6講座の資料、パワーポイント資料を提供することができます。普通科進路指導室までお申し付けください。

1. 会のテーマ：「Sustainable Development 誰一人取り残さない、持続可能な発展を目指して」
気候変動、災害、世界規模の感染症、AI、地域格差等、数多くの課題を乗り越えて society 5.0 の実現に貢献する人材育成の一端を担う。ESD in Kishima

2. 日時：令和2年10月14日(水)7限目講演会、放課後希望生徒による座談会

3. 講師情報・演題：【 】は講師の先生に関する補足情報です。

(1) 一般社団法人 就労継続支援 B 型事業所 施設長

社会福祉士、精神保健福祉士、パフォーマー 古賀 一史 先生

「人が束縛なく自由に生きるために」 【大道芸、音楽、生き方、no one left behind】

(2) おもやいボランティアセンター 理事長 鈴木 隆太 先生

「災害の現場から～ボランティアの挑戦～」【北方に拠点を置く地域ボランティア】

(3) 佐賀県ユニセフ協会 運営委員 川崎 湧三 先生

「SDGsにどう取り組むか～人類と地球の永続的発展を確保するために～」

【SDGs基礎講座】

(4) 佐賀大学医学部附属病院感染制御部 岡 祐介 先生

「これからの感染症との向き合い方」【beyond コロナ】

(5) 長崎大学 環境科学部 教授 戸田 清 先生

「石木ダム問題をはじめとする地域の課題、公害・環境・開発問題

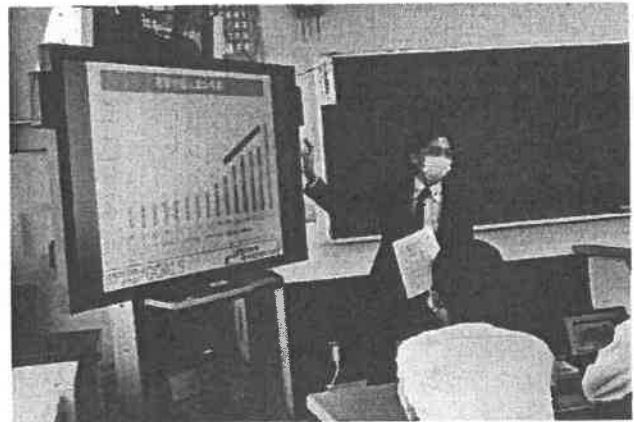
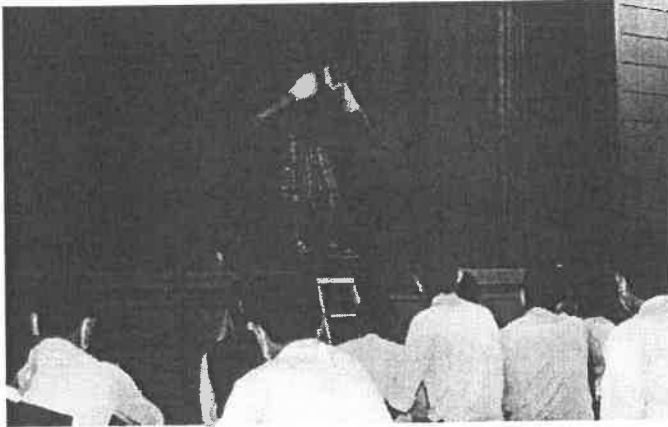
～SDGs(持続可能な発展目標)、ESD(持続可能な発展のための教育)を考えるために～」

【石木ダム問題は始業式に鶴田が触れた話題です】

(6) 西九州大学短期大学部 地域生活支援学科

講師 福元 健志 先生 演題「地域における外国人との共生」

【外国人との地域共生を通じて、世界規模で物事を考えてみよう】



生徒の感想から

- 今回の講演で自分の人生について改めて考えることができました。
- 僕たちに夢をおいて行ってくださりありがとうございます。
- 今回の講演会を通して、失敗をしても失敗だと思わないほうがいいと思いました。自分が失敗だと思ったら、そこで失敗になるので、最後まであきらめないようにしようと思いました。短い時間のなかありがとうございました。
- 石木ダムについて今回の公演では話を聞きました。講師の先生ありがとうございました。隣の県であるのに私は、この問題について知りませんでした。環境に関する問題がこんなに近くにあったにも驚きます。これからは身近な環境問題について考えながら学校生活を送りたいです。
- 今の社会の状況や今後のあり方についてとても詳しい説明でわかりやすかったです。これからの社会は僕達で築いていかないとしました。
- 今回の講演を聞いて、自分で考えて思ったことを行動に移すという事はとても、難しいことで勇気のいる事だと感じました。常に人の事を考える姿勢は、凄くカッコいいなと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- 私は岡先生の講演を聞いて、ウイルスは生きていく中で進化していくんだと分かりました。だから、私たちはウイルスに感染しないためにも予防をしっかりと行わなければならないと思いました。今は新型コロナウイルスが流行していて、感染した方の家に石を投げたりする悲しいことが起きていることに驚きました。感染したからといってその人を責めるのではなくて、みんなで感染予防を協力して行うべきだと思いました。今回の講演を参考にこれからの生活を送りたいと思います。

放課後は6人の先生方と希望生徒との座談会を行いました

各先生方からのメッセージ、参加生徒からの質問で50分の時間があったという間に経過しました。先生方の高校時代の過ごし方、体験が大変印象的でした。また、座談会の後に個別にお話をさせていただいた先生もおられました。先生方、貴重な時間をありがとうございました。



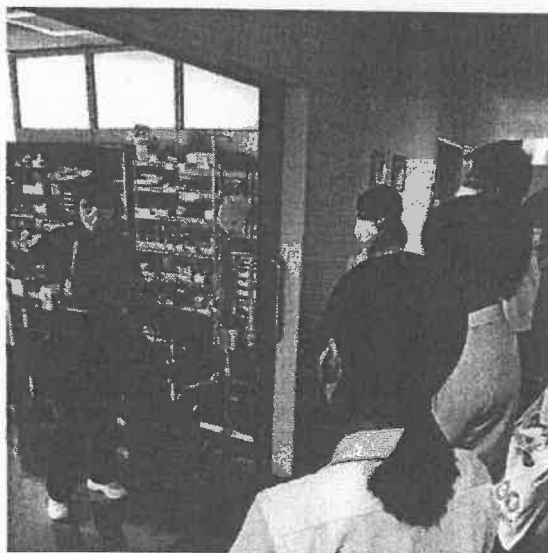
看護校外活動

- ・場 所：白石共立病院
- ・日 程：8/4 火+8/6 水 密にならないように16名の生徒を2グループに分割
- ・時 間：16:00~17:00
- ・対 象：3年生看護師志望者 商業科キャンパス生徒を含む16名
- ・内 容：院内見学、座談会
- ・説明、案内：看護部長 森田幸美 様

座談会では看護医療のやりがい、大変さ、とりわけ森田看護部長の医療に対する情熱、人間愛に参加生徒は心を動かされました。

生徒の記録から抜粋

〇私は、今回の白石共立病院に行ってみて、まず思ったことは看護師の方がすごく看護の仕事に誇りを持っていてとてもかっこいいなとおもいました。私たちを案内しながらも患者さんに声をかけていてとても気配りが上手で普段からしていないと出来ないことだなと思いました。また、質疑応答の時にとても心にのこったのは、患者さんと接するなかで大切にしていることは、引き出しを増やすことだということです。確かに患者さんは一人一人違うので趣味も好きなことも違うので話す時も話題が違うことになるんだとその時初めて気づきました。そして、患者さんのありがとうの言葉がやりがいだと聞いたときは、とってもステキな職業だなと思いました。私もいつ気配り上手でたくさんの人にとっ



救急処置室の説明をする森田看護部長

て心強い看護師になりたいと改めて思うことが出来ました。とても、いい経験が出来たと思います。

〇今回の座談会では、やはりコロナウイルスに関連したお話をたくさん聞くことが出来ました。「自責

の念」という言葉を聞き、医療従事者の方一人一人が責任感を持って日々お仕事されていることが伝わりました。そして、生半可な気持ちであっては絶対に看護師にはなれないということを改めて痛感しました。

有明海セッション

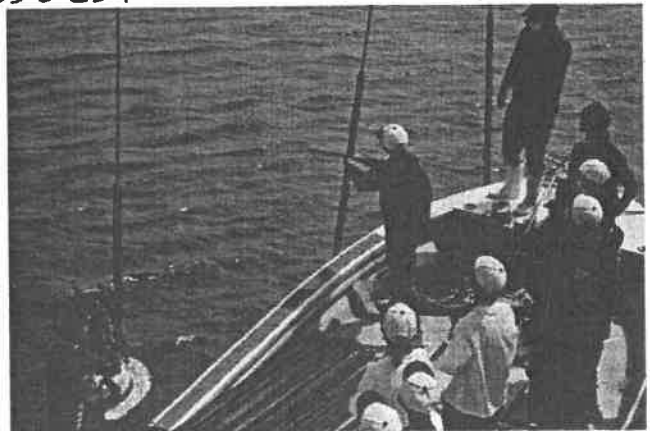
～環境保全活動～Think Globally Act Locally

No One Left Behind 誰一人取り残さない持続可能な社会づくりを目指して

1. 日 程 : 9月22日(火・祝日)
2. 場 所 : 有明海沿岸地域
・レクチャーは福富六府方 大和商店前の栈橋
3. 内 容 : 環境保全活動
 - (1) 有明海、沿岸の生物・植物観察、記録
 - (2) 災害ごみ調査、記録
 - (3) 環境整備活動、ビーチクリーン活動ごみ拾い
 - (4) 漁業組合の皆さんによる説明、海苔のプレゼント



ビーチクリーン活動中



本物の船に乗って本物の海苔網を張る支柱を立てました